

2023 年度事業報告

【1】 コッペ&エフブンノイチ+（プラス）の開設に向けて

コッペも開設から 35 年。高齢化に伴う障害の重度化・多様化もあり、作業場に入ることが難しいメンバーも増えてきました。併設しているショップも人が一杯の時もあり、この間もたびたび理事会・総会で議論されてきましたが、ゆったりと働く場の検討が必要となってきていました。

また、コッペは、町のパン屋、働くことを中心にやってきました。そこには大きいことが決していいことではないという思いもありました。しかし、今のままではあまりにスケールメリットがなく、今後継続して安定した収入を得るために少しでも規模を増やすことも検討していかなければ状況が出てきていました。

そのような状況の中、コッペに隣接する建物 1F にて共同で「コミュニティカフェ」の運営を行わないかと NPO 法人桑の木からの提案もあり、コッペ&エフブンノイチ+（プラス）の開設に向けた検討を行いました。

議論の過程の中では、具体的にどのようなことをするのか、財政的に大丈夫なのか、また、事業の進め方に対しスタッフより、もっと事前に相談してほしいと要望が出されました。これについては代表の運営方法としても反省しなければならないことでもあります。

8 月～10 月の理事会に置いて議論し、以下のようなコンセプトで新しい作業スペースを開設することとなりました。

*名称 コッペ&エフブンノイチ+（プラス）

*事業所物件 仙台市宮城野区松岡町 10-7 るーぷ 1 階

*貸主 青葉クリエイト 家賃全体で 30 万円/1 ヶ月(1 階 131.75 m²)

麦の会の負担分は 15 万で折半する

*コンセプト 地域福祉のコミュニティカフェ

- ・高齢者や子育て世代が集まりやすい「居場所」作りに加え、障害者の就労支援、地域の街づくりに取り組む場としても利用します。
- ・飲食スペース、駄菓子・手作りの小物・雑貨等の販売スペース、福祉事業所の食品販売ブース、お祭りやワークショップ等を開催し、子供食堂を月に 1 回開催する予定。
- ・子育て支援、孤立しがちな親たちの居場所作り。おもちゃを用意し子どもを遊ばせながら、おしゃべりや悩みを話せる息抜きの場。
- ・子供達が安心して集まれる場所。
- ・高齢者の居場所作り。
- ・福祉事業所の食材を使ったメニューを提供します。
- ・営業日 火～土

当初よりこれらすべてをやるわけではあいません。内容を少しずつ固めながら広げていきたいと思えます。

*コッペとして

- ・今よりも多様な仕事（作業内容）を提供できるようにする。
→今まではパンとクッキーの製造に合わせてきましたが、その人それぞれのペースで作業ができるように。
- ・規模を拡大することで、給付費の収入増を図る。
- ・福祉制度としては、コッペの従たる事業所として運営の届け出。定員は合わせて 20 名。

改修工事等を行い、2024 年 4 月 13 日にオープンすることができました。課題はまだありますが、それについては事業計画の中で検討していきたいと思えます。

【2】理事会

2023年度は計11回行いました。コッペ&エフブンノイチ+（プラス）の開設についてなど、今後の会の方向性を検討してきました。

理事以外の皆さんにも参加していただいています。意見を吸い上げるには不十分な面もあるとは思いますが、それぞれの意見を出し合ってコッペの今後について考えたいと思います。

代表理事はもとより理事そのものの世代交代も求められています。引き続き都合がつかく限り皆さんにも参加してもらうことを呼びかけます。

【4】会員（2023年3/31現在）

正会員26名、賛助会員・寄付者125名（重複者除く）（昨年度より13名減）となっています。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。

安定して認定の条件をクリアするためには引き続き寄付者・賛助会員の増加が必要です。今後も情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大を図ります。ご協力をお願いします。

【5】社会教育の推進

① 会報「麦の穂」の発行 計4回 2023年6月・9月・12月・2024年3月

今年度は予定通り4回発行（350部前後）できました。関係する団体の方から原稿をいただいたり、コッペの障害メンバーからの原稿もあり、内容もまずまずだったと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。

② ボランティアの受け入れ

区役所販売・DNP販売・ショップ等には、ボランティアの方にお世話になっています。ボランティア保険に加入し活動中のケガ等に備えました。

【6】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、258日/年、利用者延べ数は、4,124人（昨年258日/年、利用者延べ数は、3,783人）となっています。コッペの定員としては、20名。在籍は21名、一日当たりの平均利用者数は、16人（昨年14.7人）となりました。延べ数、平均数ともほぼ昨年より増加しています。

それを支えるスタッフは、常勤6名、パート4名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの皆さんに、協力していただきました。多くの障害メンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約3,050万/年（仕入れ販売分260万含む）、月平均254万となっています。2022年度の売り上げからは約139万上がりました。福の市の開催、多団体とのコラボ商品の開発等が要因となっています。

しかしながら、原材料費の高騰など利益率は圧迫されています。パンの価格の値上げ等行いましたが、今後も原材料費の先行きは見えず、不安材料となっています。

また、特に繁忙期はスタッフの負担が大きく、これまでのようにすぐに受注に対応す

ることが難しくなっています。

他の事業所との共同出店の機会も増えています。イベントでの販売は人員の確保が大きな問題になります。互いにプラスになるように今後も続けていきたいと思えます。

月 2000 円の会費で福祉事業所の製品をお届けしている B-NET サポーター会員も増えています。期間の中では 100 人を越えた月もありましたが、退会する人もあり、現在 99 名です。こちらも是非引き続きお声がけをお願いします。事務局・多夢多夢舎中山工房の会員を含めると全体では 157 名です。

③ 訓練等給付費収入

2023 年度は 3,437 万ほどとなりました。登録者が増えた分、昨年より 170 万ほど増加しています。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、総支給額で 9,589,784 円でした。2023 年度より平均工賃の算定方法が変更になり、その計算式だと、平均工賃は、49,826 円となります。これまでの計算方法で考えると 39,000 円前後と思われ、ほぼこれまでと変わりありません。先に述べたように売り上げは好調だったのですが、原材料価格等の高騰により利益は少なく、小幅な増加にとどまりました。

また、コッペ&エフブンノイチ+の開設でも述べたように、障害の重度化・多様化もあり、これまでのように工賃アップを最優先に掲げるわけにもいかない現状もあります。

工賃アップとともに、障害メンバーに対する支援をいかに充実させていくか、そのバランスが問われてくるように思います。

⑤ 収支状況

今年度は、大きな助成金を 3 ついただきました。公益財団法人社会貢献支援財団より、社会貢献者表彰として 100 万円。公益財団法人 SOMPO 記念財団様より車両購入助成として 145 万円。公益財団法人洲崎福祉財団様より車両購入助成として 300 万円。それぞれ軽ワゴン車、リフト付き福祉車両の購入にあてました。

その車両を資産として計上した結果 230 万ほどのプラスになりました。

⑥ レクリエーション・研修

2023 年 8 月 10 日、久しぶりの日帰り旅行に出かけました。桑の木のマイクロバスをお借りし、川崎町にある就労支援 B 型作業所のレストラン「kokage」と虹の園が運営する「レインバー川崎」へ行き、食事と見学を行いました。参加された皆さんは楽しんでくれたと思います。

【7】 NPO 法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO 法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もともになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月 1 万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

引き続き情報交換をしながら連携していきたいと思えます。

【8】 NPO 法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO 法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。東北ブロックでの活動は行えませんでした。11 月に東京・多摩で行われた全国大会に参加しました。